たんとキッズあおき通信

Vol.21

たんとキッズあおき　は、お陰様で８月に開所**５周年**を迎える事ができました。
そして、法人としては４月に**２０周年**を迎える事ができました。
さらにさらに、前法人からだと４月で**２５周年**を迎える事ができました。
一重に、みなさまの温かい応援のおかげです。
これからも、青木村周辺の障がいをお持ちの方々やその家族が笑顔でこの土地で暮らしていけるように尽力していきますので、これからも、応援よろしくお願いします。

たんとキッズあおき　スタッフ一同

コラム　～　保育園の先生にインクルーシブ保育の話をしてきた　～

上小地域の保育園の先生向けに「インクルーシブ保育」の話をして欲しいと頼まれ、話をしてきました

インクルーシブとは何でしょう？青木村でも以前から「村の子は、村で育てる」というコンセプトの元、誰でも一緒に育つ（学習する）ことを大切にしてきています。その中の一つの引き出しとして、たんとキッズあおきも微力ながら一緒に活動させていただいているのですが、その中で青木村保育園に定期的に訪問させていただきながら、発達が緩やかな子や行動に課題がある子が、友達と一緒に楽しく過ごせるような工夫を一緒に考え提案させていただいているのですが、それが評価されて取り組みや、日頃感じていることをみなさんにお伝えする機会をいただきました。まだ、これを書いている時点では２回実施させていただくうちの１回目が終わったところですが、とても興味深く積極的に話を聞いていただけました。

そこで話をしたことのダイジェストをみなさんにもちょっとだけご紹介します。

インクルーシブとは「すべてを含む」「包括的」という意味があります。インクルーシブ保育とは、子どもの年齢や国籍、障がいの有無などに関係なく、全ての子どもを受け入れる保育ということを意味します。現在の保育では当たり前とされている考えですが、現実は少々違うようです。拒否するということではなく、どうやって受け入れて行けば良いのか困惑しているというのが正しいのかもしれません。

先日、ある話の話で不登校の話になり、昔は好かれ悪かれ「勉強がわからない」とか「いじめられている」など理由がある程度わかりやすい内容だったのかもしれないですが、最近は原因が多様化しており、対応もお子さん一人ひとり違い、専門性が要求されるようになってきました。それは保育園でも関係することで、さらにこのインクルーシブ保育にも深く関わってきます。今や保育園、さらに先生たちは多様化したお子さん一人ひとりに対応していく技術が求められてきます。昔であれば、一緒くたにされていたことも時代が変わり、個性に合わせた対応が必要になっています。私も昭和の時代に保育園で過ごしていたので、その頃の数少ない記憶と比べても今の保育園は変わっています。

とはいえ、全てに対応するのは神様でなければ難しいことも多く、その中で求められる最低限の対応テクニックや考え方を障がい児支援の専門家としてアドバイスさせていただける機会がもらえたのは、私達が一緒に考え地域を作っていくとしても、とても大切で貴重な時間でした。これからも一緒に考えて行ける機会を作っていけたらなぁと思っています。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんとキッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

たんとキッズあおき（ＮＰＯ法人たんと。）

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075－1

■開所時間　9:00-17:00
■定休日　　土日祝日

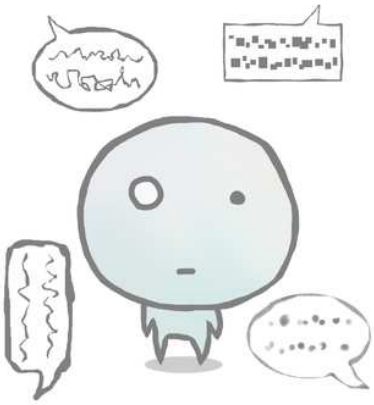
NPO法人たんと

あなたの知らない発達障がいの世界

2025.1

個人攻撃の罠って知っていますか？

これを読んでいただいている方は、「個人攻撃の罠」という言葉を聞いたことがりますか？
あまり聞いたことなく初めて耳にする言葉だと思います。
ではこの言葉はどんな意味があるのでしょうか？



文字のままであれば「個人を攻撃する」＝いじめ？と思われるかもしれません。
間違ってはいないのですが、もう少し深い意味があります。
実はこの言葉は、行動科学や行動分析学の中で使われている言葉で、障がい福祉の業界では時々話題に出てきます。

「あの人は、○○ができないから」
「あの人は、落ち着きがないから参加するのも難しい」
「あの人は、自閉スペクトラム症だから」

この言葉は対象物に対して使う言葉で、「○○は、△△だからしかたない」というイメージを想像していただければわかりやすいかもしれません。
簡単に例えると、その人の行動や態度が気になっても、仕方ないと関わることを諦めてしまうことを、表現しています。
「あいつは、才能がないから」「あいつは不器用だから」というのも同じ表現としてよく聞く言葉ですね。
だからと言って使ってはいけない言葉ではありません。ただ、可能性があるかもしれない事に対してこの表現、考え方をすることで、それ以上、関わることがなくなりストップしてしまいます。

この「個人攻撃の罠」は、行動科学や行動分析学の分野で、ある特定の行動や特性を持つ個人に対して、その特性を理由に、その人の可能性や価値を限定的に捉えてしまうことを指します。つまり、「〇〇だから、仕方ない」と、その人の行動や特性を固定化し、変化の可能性を狭めてしまう考え方なのです。

みなさんのお子さんや、周囲の方々とのやり取りの中で、もし今のような考えになっている事があったら、もう一度考え直してみてはいかがでしょうか？
少し前までは無理だった事が、今はできるようになっているかもしれません。
もしかしたら、関わり方や受け取り方を工夫すればお互いに理解ができるようになるかもしれません。
まずは、その人の行動や言葉の裏にある意図を理解しようとすることから始めてみましょう。
とはいえ、必ずではないですが、最初から「○○のせい」にしてしまい関わることを諦めてしまうことは、お互いにプラスになりません。

もしかしたら、その人が置かれている環境や状況が、その人の行動に影響を与えている可能性もあるかもしれません。
私たちが「個人攻撃の罠」に陥ってしまうと、その人との関係性が悪化したり、その人の可能性を見逃してしまうことがあります。大切なのは、その人の特性だけでなく、その人が置かれている状況や、私たち自身の接し方についても深く考えることです。
もしかしたら、少しコミュニケーションの仕方を変えたり、環境を整えることで、より良い関係を築けるかもしれません。まずは、その人の行動や言葉の裏にある意図を理解しようとすることから始めてみましょう。